

パモジャ PAMOJA



第16号
青年海外協力隊 巢守 世那
2025年 8月3日発行

2学期スタート！

1か月の長い休みが終わり、7月8日から2学期が始まりました。

いつもの通勤路を歩いていると、近所の人たちが「セナ〜久しぶり。どこに行っていたの?」「全然見なかったから、もう日本に戻ったのかと思ったよ。」とたくさん質問されました。学校では、子どもたちが少し恥ずかしそうに声をかけに来てくれたり、同僚の先生たちとおしゃべりをしたりして、「日常が戻ってきたな、帰ってきたのだな」と感じました。いつのまにかバガモヨが、タンザニアの居場所になっていたのだなと思いました。

タンザニアのごみ問題

2学期は全学年に「ごみ問題」について考えてもらう授業をしようと考えています。

タンザニアでは、ごみがあちらこちらに捨てられています。ペットボトル、お菓子の袋、使えなくなった充電器、食べたバナナの皮、パイナップルのへたなどあらゆるものが道端に捨てられています。はだして走る子どもたちもいるのでとても危険ですし、側溝にはごみがたまりとても臭いです。ごみ収集車はあるのですが、ほとんど見たことはありません。バガモヨには一つだけ廃棄物処理場があるのですが、とても遠くゴミ収集車も来ないので、ほとんどの人が自分の家でごみ（燃えるゴミ、燃えないゴミ関係なく）を燃やしています。タンザニアには、美しい自然やたくさんの動物が住んでいるのに、このままだとそれらを壊してしまうかもしれません。

学校でも、子どもたちはノートを破り教室や窓からそのごみを投げ捨てています。チャイの時間が終わると、そこら中に食べた後のごみ、ビニール袋が落ちています。朝に、掃除をするくらいという問題ではなく、どうしてごみを道端に捨ててはいけないのか、ごみが環境に与える影響を知ってもらうこと、考えることが大切だと思い紙芝居をしたり、ごみ箱を設置したりしてみようと思います。



近所に住んでいるママたち
帰りに一緒にウガリ食べよ
うと誘われ食べることに。ほ
うれん草の炒めた料理がお
いしい!



↑ウガリ↑鶏の首の部分

↓ほうれん草 ↓あげた魚

